

プレス発表資料

平成26年7月2日

独立行政法人 防災科学技術研究所

防災科学技術研究所がスイス連邦雪・雪崩研究所 と包括的研究協力協定を締結

—世界最先端の雪氷防災研究拠点の形成を推進—

独立行政法人 防災科学技術研究所（理事長 岡田義光）とスイス連邦雪・雪崩研究所（所長 ユルク・シュバイツァー）は、両者間での研究者の交流や情報交換を円滑かつ活発に行うことを目的として、平成26年7月1日、包括的研究協力協定を締結しました。

これまで両機関は、温暖積雪地帯に対応した積雪構造物理モデルの開発、吹雪の発生メカニズム解明など個別の課題において研究協力を実施してまいりましたが、今回の包括的研究協力協定締結で、より広範な研究テーマにおいて、データや施設の共同利用、フィールドにおける共同調査などが円滑に実施できることとなり、研究者の交流や共同研究が効果的に進むことが期待されます。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会
長岡市記者会、新潟県政記者クラブ、新潟新県政記者クラブ
新庄新聞放送記者会

防災科学技術研究所がスイス連邦雪・雪崩研究所と 包括的研究協力協定を締結

独立行政法人 防災科学技術研究所(NIED 理事長：岡田義光)とスイス連邦雪・雪崩研究所(SLF 所長：ユルク・シュバイツァー)は、両者間での研究者の交流や情報交換を円滑かつ活発に行うことを目的として、平成26年7月1日、包括的研究協力協定を締結しました。これにより、NIEDが国内はもとより世界最先端レベルの雪氷防災研究の推進に大きく貢献することが期待されます。

NIEDは、レーダや山地に展開した観測点を用いた降積雪の観測や、雪氷防災研究センターや新庄雪氷環境実験所等における雪氷災害の防止・軽減に資する雪氷現象などの基礎研究を推進してきました。また、それらの知見をもとに雪崩予測、吹雪予測、着雪氷予測などの雪氷災害発生予測モデルの開発も行ってきました。特に近年は、突発的な集中豪雪による雪氷災害に関する研究や、今後温暖化に伴い多発すると考えられる湿雪に起因する雪氷災害の研究に力を入れています。現在、それらの研究成果を包括した雪氷災害の発生を予測するシステムの実用化を目指しています。

SLFは、スイスの自然災害の中で特に被害が大きい雪氷災害を中心に研究を行っている機関であり、積雪の最先端測定技術の開発研究を行うとともに、それらの研究成果を基に、融雪期に発生する地滑り災害などの研究も実施しています。また研究に加えて、現業としてスイス全土の雪崩予測を担当し、さらにヨーロッパ全体の雪崩警報の発令に関しても中心的な役割を果たしている機関です。

NIEDとSLFは、これまでもSLFが開発した雪崩予測のための積雪(構造物理)モデルを改良し、日本の湿雪に対応する積雪内部の水の移動をモデルに取り入れる共同研究や、新庄雪氷環境実験所を用いた吹雪に関する共同研究など、個別の課題に関して研究協力を実施してきました。今回、本包括的研究協力協定締結により、両機関でより広範な研究テーマに関して、データや施設の共同利用、フィールドにおける共同調査などが円滑に実施できることとなります。これにより、研究者の交流や共同研究(雪崩や吹雪災害の発生機構の解明等)が効果的に進むことが期待されます。

世界をリードする立場である両機関の協力により、当該分野のさらなる発展、人材育成への貢献、今後の温暖化に伴う突発的な雪氷災害への対応に関する研究といった防災科学技術の発展と、これらをもととする国際社会への貢献に尽力してまいります。



協力協定書を持つ岡田理事長



協力協定書を持つシュバイツァー所長